

木質バイオマスの地産地消

1 事業の主体

事業実施主体	岩手県	代表者	増田 寛也(知事)
住所	岩手県盛岡市内丸10番1号	電話番号	019-651-3111

2 地域の現状 (施設が所在する市町村又はバイオマス利活用に地域との関連がある場合はその市町村のデータ) 施設が所在する市町村名：(住田町)

総世帯数	2,174 戸	農家数	913 戸	林業経営体数	332 戸	漁業経営体数	- 戸
総人口	6,848 人	総土地面積	33,483 ha	林野面積	29,530 ha	田耕地面積	459 ha
普通畑面積	140 ha	樹園地面積	7 ha	牧草地面積	410 ha	乳用牛頭数	160 頭
肉用牛頭数	2,700 頭	豚頭数	41,400 頭	採卵鶏羽数	- 羽		

3 事業の概要

岩手県では、冬期における歩道の安全な通行の確保を図るため、県管理道路へ消融雪施設の設置を進めており、その熱源として、地下水、電気、ガス、重油、灯油等を利用してきた。

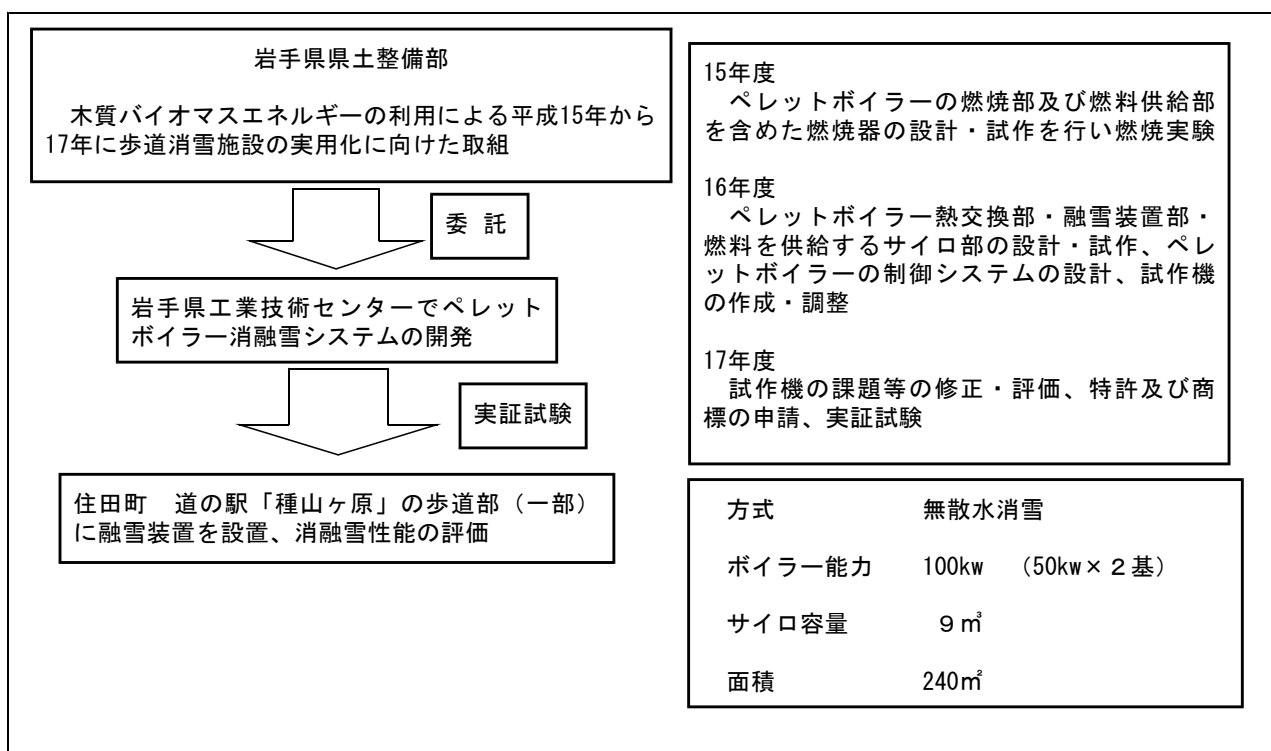
しかし、平成11年に策定された「岩手県環境基本計画」の二酸化炭素削減目標達成に寄与することを目的に、15年度から17年度までの3か年で木質バイオマスエネルギーによる歩道消融雪施設の実用化に向けた取組を行うこととなり、その開発を岩手県工業技術センターへ委託して進めている。

15、16年度はペレットボイラー、熱交換部、融雪装置部、サイロ部の設計・試作・調整を行い、17年度には、試作器試験の課題等の修正・評価を行い、特許及び登録商標出願を申請した上で、実証試験を行っている。

実証試験として、住田町にある道の駅「種山ヶ原」(標高約600m)に消融雪装置を設置し、17年12月から18年3月まで行っている。

4 現在の取組状況

推進体制、収集システム (バイオマス利活用の関係団体等のフロー図)



5 施設の概要

施設名称	ペレットボイラー消融雪システム	電話番号	019-651-3111
施設設置主体	岩手県	稼働開始年	平成18年
導入補助事業			
主な設備	ペレットボイラー サイロ 消融雪装置	施設整備費 運転状況等	千円 時間 1日の稼働時間： 年間の稼働日数：

施設のシステムフロー（画像）



6 経済試算（ランニングコスト、施設の減価償却費、耐用年数）

試験中のため試算していない。

7 経済面以外の資産（事業の効果（実績）、今後期待される効果）

再生可能で、環境負荷が小さいとされる木質バイオマスエネルギーの利用は、二酸化炭素の排出削減による地球温暖化防止、間伐材等の利用による地域経済振興、森林が持つ公益機能の向上など直接、間接の効果期待される。

8 現在の課題と展開方向

木質バイオマスエネルギーの利用は熱利用が主体となるが、競合する化石燃料と比較して①体積が大きく取扱いが不便 ②発熱量が低い ③資源が広く分散して存在するため収集運搬コストが割高であるなど、コストや利便性の面で劣っている。しかし、木質バイオマスの利用は、地球温暖化対策の推進や新エネルギー導入の促進等に寄与するメリットを有することから、実証試験の結果を踏まえて、メンテナンス等のランニングコスト削減の工夫を図りつつ、今後も県管理道路への利用拡大について検討していきたい。

また、ペレットボイラーの屋内暖房への利用拡大についても検討を行う予定。